



シリーズ! 活躍する2020年度日本ITU協会賞奨励賞受賞者 その4

さかきばら もりひろ
榊原 守浩

公益財団法人KDDI財団 国際協力部
mo-sakakibara@kddi-foundation.or.jp
<https://www.kddi-foundation.or.jp/>



APT（アジア太平洋電気通信共同体）プロジェクトによるミャンマーの大学教育用クラウドネットワーク構築や機能拡張を行い、複数大学による研究用クラウドリソースの共有や教材共有を実現。また、ミャンマーの大学教員向けネットワーク利用技術研修や大学生向けのIT教育機会提供のためのアプリケーションコンテストを毎年企画実施している。

ミャンマーでの大学教育向上をテーマとした国際協力

この度は、日本ITU協会賞奨励賞を表彰いただき、大変光栄に存じます。日本ITU協会並びに関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

2014年度から2017年度にかけて、ミャンマーにて実施された、日本政府の特別拠出金によるAPT（アジア太平洋電気通信共同体）デジタルディバイド解消パイロットプロジェクトにより、教育・研究用クラウドサーバをヤンゴンの情報通信大学（UIT）に設置して、複数のコンピュータ大学/工科大学がインターネットVPN網経由で接続して利用するクラウドネットワーク構築がなされました。このプロジェクトに参加したことが、私のミャンマーとの関わりの始まりでした。

このAPTプロジェクトを通じて、1つのクラウドサーバを16大学で共有するネットワークが構築され、このサーバを共有して研究課題に取り組んだり、教材を共用したりすることが可能となりました。このプロジェクト終了後も、このクラウドネットワークの拡充と利用促進のための環境作りをミャンマーの関係者と一緒に進めています。

ミャンマーに足繁く通い、教育省、運輸通信省、大学やコンピュータ連盟等の関係者と直接話をする機会を増やし、ミャンマーの方々がやりたいこと・必要なことは何か、どういふ内容でどう実現するかを一緒に考え、1つずつ一緒に

実現していきました。主に以下の3つの施策をミャンマーの政府関係者や大学関係者と一緒に進めています。

1つ目は、今後の利用大学増に伴う負荷増大を軽減すること。4つの追加クラウドサーバを主要なコンピュータ大学/工科大学に分散設置して負荷分散を行い、接続大学数を増やしやすい環境を用意できました。

2つ目は、このクラウドネットワークを利用する大学の先生方のネットワーク利用技術向上を図ること。アジア太平洋地域で同課題に取り組んでいるAPNIC（アジア太平洋地域のIPアドレス管理団体）財団と共同で、2018年度からワークショップを毎年開催しています。

3つ目は、プログラミング開発能力や企画・英語でのプレゼンテーション力を鍛える機会を学生に用意すること。教育省傘下のIT系学部を持つ全46大学の学部生を対象としたアプリケーションコンテストを、ミャンマーコンピュータ連盟と共同で、2017年度から毎年開催しています。

現地で実際に見たり聞いたり触れたりすることで、現地の要望と日本側の考えの違いを見つけ、実感して、理解することの繰り返しは大変勉強になります。こうして課題を解決していく過程は、時間も手間もかかりますが、実現した時の喜びもひとしおです。今後も現地の人たちと一緒に継続していきたいと思います。